



Title	さくらの苗木贈呈
Author(s)	
Citation	makoto. 1975, 10, p. 8-8
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/86233">https://doi.org/10.18910/86233</a>
rights	
Note	

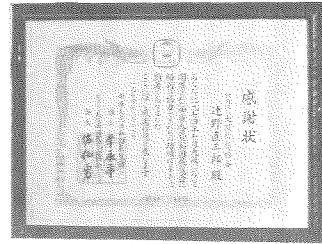
*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

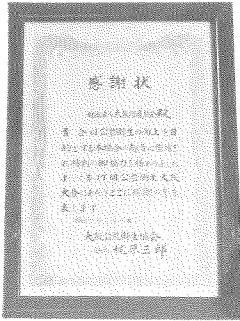
The University of Osaka

## 中国展団長から

つぎのとおり感謝状が辻野理事長に贈られた。



大阪公衆衛生協会より  
財大阪防疫協会に  
つぎのとおり感謝状が贈られた。



## さくらの苗木贈呈

当協会理事長辻野直三郎は公益法人活動の一環としてつぎの趣意により贈呈した。

### 趣意書

近時、急激に人口が都市に集中し、それに伴う大都市周辺部の無秩序な過密化、いわゆるスプロール化現象のため都市環境は急速に悪化し、加えて、これら過密地域においては各種環境整備施設の不足や各種公害に悩まされ、環境の快適性が著るしく失なわれていることは周知のとおりであります。

このような危機に頻している都市において人間性を回復するためには、都市の安全性、快適性を求め、静かなるおいのある環境において社会生活を確保しなければなりません。

このために、府をはじめ、各市町村が種々の行政を進めておられますが、私達府民もできうる限りの協力をなし、所期の目的達成のため努力する必要があることは今更申し上げるまでもありません。

この意味において、府民

が快適で、健康な生活を営むために、いま、もっとも必要なことは「緑の環境づくり」であると痛感いたします。

当協会も昭和二十二年五月設立以来、防疫業務を通じ公衆衛生の向上に微力ながら尽力いたしてまいりましたが、最近の状況においては、「自然環境の保全なくして公衆衛生の向上なし」との理念にもとづいて「緑の環境づくり」を当協会の一事業としてこれに取り組むところとなりました。

もとより「緑の環境づくり」は一朝一夕に成るものではなく、長い年月、府や市町村、団体、それに府民全部が力を合わせなければ、容易に達成できる事業ではありません。

従いまして、今後遅々ではあります当協会も継続してこの事業を推進する所存でありますので、皆様方のご指導、ご援助、ご協力をお願い申し上げます。

先づ、今年度の「緑の環境づくり」の一端として、従前からの樹木病害虫防除のほか、僅かではありますが植樹をいたしたいと考え、樹種について検討

いたしました。近時、我が国の国花である「さくら」の衰頹が著るしい現状に鑑み、これが植樹によっていくらかでも「さくら」の復興に役立てたいと念願しておりましたところ、幸い、大阪府農林部のご援助により苗木を入手することができましたので、甚だ勝手ではありますがこれを皆様方の空地に植えさせて戴き、共に育てて「生きた緑」に仕上げたいと思いますので、何卒本趣旨のご理解とご協力を賜りますようお願いする次第であります。

今後この「さくら」の植樹については、大阪府農林部にご援助をお願いするとともに、財団法人日本さくらの会及び府下同好の志とも相提携して推進し、府下に新たな「さくら」振興に役立ちたいとの遠大な理想に燃えておりますのでよろしくご指導、ご協力くださいますようお願いいたしますとともに、本事業の発足にお力添えを賜りました各位に厚く感謝申し上げます。

昭和五十年三月  
財団法人大阪防疫協会

理事長 辻野直三郎

第一事業部職員研修をつぎのとおり実施した  
大阪府池田保健所加藤主幹、大阪府農林技術センター専門術員奥野孝夫氏を外来講師としてむかえ、昭和五十年二月五・六日の両日に大阪府箕面山荘で実施した。



第一事業部研修風景

## 編集後記

▲本号表紙の写真「きびしい冬をじつと耐え、待ちかねた爛漫の春をたたえて咲き匂う白百合の花」第一事業部・着本秀一氏の作品です。

▲郷土、なにわの古い文化をしのび、この度それ等を記念する国立劇場（仮称）が設立される気運になったので「まこと」10号と共に別冊として「なにわ文華と国立劇場」を特集・発送いたしました。（喜多）